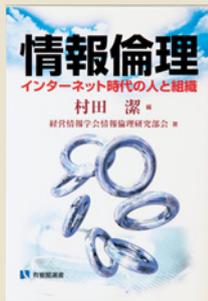


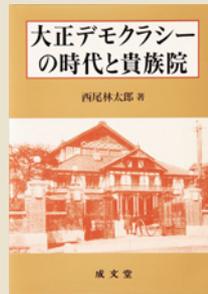
著書紹介

Academic Library

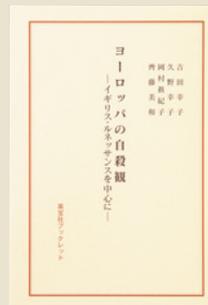
著者自らが近刊を紹介します。



「情報倫理 - インターネット時代の人と組織」
ビジネス学部教授 梅田敏文(共著)
四六判/414ページ/有斐閣/2,600円+税
/2004.12.25発行
顧客情報の漏洩事件、住基ネットの扱い、ソフトウェア著作権の侵害など情報技術の利用に倫理的な対応が迫られる場面が増大してきた。本書は、こうしたインターネット時代における情報倫理の諸課題を個人と組織の観点から幅広く論じている。また、諸問題の対応策を倫理と法律、倫理と技術、倫理思想なども含めて考察している。



「大正デモクラシーの時代と貴族院」
現代社会学部教授 西尾林太郎(単著)
A5判/439ページ/成文堂/6,300円/2005.2.1発行
本書は、貴族院の最大会派・研究会のリーダー水野直(子爵)の未刊行史料を駆使し、明治末～大正末の議会政治を、従来の衆議院や政党の側からでなく、貴族院側の視点で捉えている。今日と異なり、両院が対等な権限を有した明治憲法体制の下で最も民主的な時代であった、大正デモクラシー期の政党政治は、衆議院ばかりが貴族院の積極的な参画によって、その実現が可能であった。貴族院は言われるほどには反動ではなかったのである。



『ヨーロッパの自殺観 イギリス・ルネサンスを中心に』
文学部教授 久野幸子(共著)
B5判/182ページ/英宝社/1,800円/2005.2.15発行
中世から17世紀末までの英国の劇、詩、散文などを用い、それらに描かれた自殺及び自殺論を中心に、ヨーロッパの自殺観を考察したもの(全4章)。久野は第2章で『ユートピア』中の「安楽死」とく処刑直前の作品『苦難に対する慰めの対話』での「自殺禁止論」をもとにトマス・モアの自殺観を追求した。



「子どもをとりまく環境 - 名古屋の事例 -」
医療福祉学部教授 榎橋昌子(編著)
A5判/114ページ/エイ・ワークス/1,500円+税
/2005.1.25発行
子どもの育児環境が激変する現代にあって、どのような育児支援が必要とされているのか。自然がもっている育児力、多様な人間関係の大切さ、男女ともに育児に関わる意義を問い直す。名古屋の事例を中心として論文調のデータと教育実践及び現場での実践を組み合わせることを試みたものである。



「学校教育で育む『豊かな人間関係と社会性』 心理学を活用した新しい授業例Part 2」
コミュニケーション学部教授 斎藤和志(共編著)
コミュニケーション学部講師 小川一美(共著)
A5判/188ページ/明治図書/2,200円+税
/2005.2発行
社会心理学などの知見を利用して、子どもたちの社会性や対人関係能力を高めることはできないだろうか。この思いから始まった中学校での教育実践をもとに、詳細な授業手続きの紹介とその心理学的背景についてのわかりやすい解説をまとめた本。



「沈清伝(シムチョンジェン)日本語版」
著者:金暉鎮(キム・キョン・チン) 韓国群長大学日本語教育講師)
文学部教授 堀尾幸平(共同翻訳・解説・編集)
A5判/148ページ/日本学術出版/1,800円
/2005.4.1発行
盲目の父親を救うために大海の魔王のいけにえになった少女「沈静(シム・チョン)」の数奇な運命。韓国で古くから庶民の民俗芸能パントリとして口伝された「孝」思想に基づく真摯な物語が李朝朝鮮時代に童話、道徳小説として定着した。著者が特に日本の若い人たちに読んで欲しいとの熱望から現代の小説に書き下ろし、日本語版として刊行。ところが著者は出版2か月前に急逝した。日韓友好40年記念出版。